

## 第5回ESDティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

大西 浩明

◇日時 2025年1月28日(火) 19時~20時30分

◇方法 Zoomによるオンライン方式

◇参加者 23名

◇実践報告 福岡市立内浜小学校 床田知子先生

「なんでこんなことしなくちゃいけないの? 日本の学校」

— 外国にルーツをもつ児童へのアプローチ —

### 【実践概要】

35年間担任をしていたが日本語指導に関わって3年目

#### 1) 外国にルーツをもつ児童への日本語指導とは? (福岡市の場合)

他の小学校から週に一度拠点校に90分授業を受けるため通級

自分の学校で別の日本語指導員から最大96時間の日本語指導が受けられる

現在20名担当している(中国、香港、アフガニスタン、ミャンマー、バングラティシュなど)

日本語の授業に加え、保護者や担任、管理職、市教委などとの連絡が大変

#### 2) 日本の学校文化を教えようという考えが根本から間違っていた

外国にルーツをもつ子どもにとっての大きな壁になるもの

→「だれかのための行動」をあたり前のように強いられる(掃除、当番活動、給食、係活動など)

だれかのために働くことは満足感が得られることを、教え諭そうとしていた これが失敗

単元「みんなのためにできること」を実施

働くことはみんなのために役立つという喜びに気付くことができる ESDと関連させて

人権・文化の尊重・・・多様な文化のあり方に目を向ける

(授業の流れ)

・日本の学校についてアンケート

「日本の学校に来ておどろいたことはなんですか。」

「日本の学校でいいなと思うことはなんですか。」

「日本の学校でいやだなと思うことはなんですか。」 否定的な意見はほとんどなかった

・道徳「みんなのために」を読み、みんなのアンケート見ながら自分の考えと比べる

すすんで働くということについて考える

児童・生徒が掃除を行う国・・・34.3% それぞれちゃんとした理由がある

・「みんなのためにはたらく」について自分の考えを絵や文章にまとめる

自分の国では学校でそうじをしない そうじをしたら気持ちがいい。

自分がしたことが周囲を幸せにする 自分のできることがふえた気がする。

言葉もわからない中で学校生活を送っている子どもたちへのアンケートだったが、想像していたより子どもたちは日本の学校生活(そうじ・給食の配膳・係の仕事)に良さを感じていることが伝わってきた。

「みんなのために」という観念が外国にルーツを持っているから違和感があるであろうという仮説自体が偏見だったのではないかという考えにいたった。子どもたちは、もともとそうじや給食配膳など個々の活動に違和感があるのではなく、はじめての活動だから違和感があったということが伝わ

てきた。

「そうじについて（中国から男子5年生）」

4年生のとき、日本にきて、ぼくはそうじがいやだった。せんせいがこくばんのまえのほうきをしてねといったので、ほうきもったけど、そうじはしていなかった。もんくをいわれてけんかになったこともある。せんせいは、ぼくがなれるまでかたんなまどふきをしてと。それもしなかった。そうじをしないでかくれていたこともある。せんせいは、中国では学校でそうじをしないところもあるとみんなにいつてくれた。それはほんとうです。でも、いまはそうじをしている。まいにちみんなしているし、やってみてなれてきた。おかあさんは、それならいえでもそうじをしなさいというけれど、いえではしていない。ぼくは、そうじはあまりじょうずではないけれど、みんなでそうじをすることはいいとおもう。ただ、ぼくよりもそうじをしていないともだちもいる。いいことだから、みんなでそうじをしていこう。

にほんの学校について、ともだちとけんかをするけれど、それいい、わるいところはない。

にほんの学校は、こどもにやさしいとおもう。

「やすみじかんとかかしのしごとについて（中国男子6年生）」

にほんのがっこうで、いちばんいいところは、ひるやすみ、そとであそぶことができることです。まえ、ぼくたちは、ひる、かならず30ふんひるねをしなければだめでした。ともだちとはなしをすると、せんせいにおこられました。それをいうと、にほんごのせんせいから「ひるねは、あたまにいいからしていたのよ。にほんのがっこうでもしたらいいね。」といったけど、ぜったいにやめてほしい。そとで45ふん、あそべるなんてしあわせです。ひるねよりあそびです。

みんなは、やすみじかにあそべるから、たのしくなかくあそぼう。

しかし、たのしいやすみじかんとられるのが、いいんかいかつどうです。ぼくは、しいくいんかいです。うさぎのふんをとる、そうじ、みずやり、えさやりはたいへんです。でも、わすれたらうさぎがかわいそうです。さいしょは、「あそべない。いやだー。」とおもっていたけど、あついとき、さむいとき、うさぎのことがとてもきになります。あそびはすきだけど、うさぎのこともきになります。いまは、ともだちといっしょにはやくそうじをして、あそぶじかんとをながくしています。

かかしのしごとについて（アフガニスタン女子4年生）

わたしはおてつだいがすきです。だからせんせいのおてつだいかかりをしています。せんせいヘルパーです。プリントをはこぶと、せんせいが「ありがとう。たすかります。」といつてくれます。いえでもしています。わたしは、まえ（アフガニスタン）では、がっこうにいつていなかったの、にほんのがっこうがだいすきです。べんきょうをがんばって、せんせいになりたいです。

がっこうでみんなとあそぶのがだいすきです。べんきょうもだいすきです。

### 3) 子ども、保護者からのメッセージ 「日本の先生ありがとう！」（保護者アンケートより）

「日本の学校に来て驚いたことは何ですか？」

- ・非常に歓迎してくれたこと
- ・運動場も広く、様々な活動ができる。
- ・日本語を基礎から教えてくれた
- ・先生やスタッフは家族のように接してくれる
- ・掃除や給食の配膳を子どもがすること
- ・毎日宿題が出て、それを先生がしっかりチェックしている
- 先生方の労力はいかばかりか、かなりの長時間労働をしていると思われる

「日本の学校でいいなと思うところは？」

- ・たくさん教科、スケジュールがある
- ・とても清潔で広々している
- ・友好的
- ・多様性を学べること
- ・先生方がとても親切
- ・クラスメイトも親切
- ・運動会などの学校行事ときに親切に、また配慮もしてもらった

「日本の学校でいやだなと思うことは？」

- ・ありません
- ・日本の保護者は、先生への要求が高く、先生がどれだけ長時間働いても当たり前だと思っているのではないか。忍耐強く、寛大で、いつも助けてくれるのが当たり前だと思っているのではないか。

「日本の先生ありがとう！」…将来、先生になりたい

(子どもへのアンケート結果)

**1. 日本の学校に来て おどろいたことは 何ですか。**

- ・第1位 先生がやさしい。(10名)
- ・第2位 べんぎょうのしゅるいが たくさんある。(9名)
- ・(体育・音楽・図工・家庭科など)
- ・第3位 とうじがある。(9名)
- ・第4位 りょこうやピクニック(えんぞく)がある(6名)
- ・第5位 きゅうしょくがある。じぶんたちでくぼる。(5名)
- ・第6位 あるいてこないといけないう。しゅくだいがすくない(3名ずつ)
- ・第7位 かんしする人がすくない(2名)
- ・第8位 かかりのしごとがある おやのおくりむかえがない(1名ずつ)

**2. 日本の学校で いいなと 思うところは 何ですか。**

- ・第1位 せんせいがやさしい。(おこるとこわいけど)(9名)
- ・第2位 あそびのしかんがある。(やすみしかんがある。)(8名)
- ・第3位 音楽・体育・図工・家庭科がある。(7名)
- ・第4位 きゅうしょくがある。おいしい。(5名)
- ・第5位 しゅくだいが すくない(3名)
- ・第6位 ともだちがやさしい。めんどうをみてくれる。(3名)
- ・第7位 べんぎょうしかんが すくない。(ほくの日は1.2年生でも7時間授業。)(2名)
- ・第8位 いろいろな活動があり。全て子どもに役立つ(1名)

**3. 日本の学校で いやだなと 思うところは 何ですか。**

- ・第1位 いやなことはない。ぜんぶオッケー。(14名)
- ・第2位 なまえや かみのけのことで いやなことをいわれた。(でも、せんせいがものすごくおこってくれた。)(1名)
- ・おんなのこと なかよくしていたらラフラフといわれる(1名)
- ・じぶんだけ かかりのしごとをしなさいといわれて とてもいやだった。(1名)
- ・グループかつどうのとき、いっしょのグループになったら「あーあ」といわれた。(1名)
- ・イェスカノーカはつきりしない。なんて思っているかわからない。(1名)

**【意見交流】**

○ESD の視点を入れたことで、これまでの指導と変わったところは？

→ きちんと学習のゴールを見据え、そこに ESD の視点が入ったことでブレないようになった。

○「やさしい日本語」を使うことの大切さを教えてほしい。

→ 学校で使う日本語は特殊なものが多く、翻訳アプリで訳しても意味が伝わらないことがよくある。  
通知表の所見、「○○をご遠慮ください」「取り組む」

一見乱暴な表現も、その方が相手には正しく伝わる。 短文で。

○外国にルーツをもつ生徒に限らず、全生徒の育ちのルーツにも目を向けることの大切さに気付かされた。

○学校に日本語指導の先生が来ても、担任との意思疎通を図る時間がとれていないのが現状。

→ 連絡ノートを活用している。メール、電話。

「学級担任のための外国人児童指導ハンドブック」(菊池聡 著)の必携を勧めます。

○「みんなのためにすすんで働く」というのは外国人児童だけでなく、どの学級でも大事な指導になる。

○外国人の子どもたちの成長が、周りの日本人の子どもたちの成長にもつながっていると思う。

○日本語指導をやって見えてきた学校文化は？

→ じっくりと考える時間が与えられていない。 先生自身が幸せにならないと。

日本の先生は本当にすごい！

○自分の常識がみんなの常識と考えてしまっていることが多いのではないか。

まさにクリティカルシンキングの重要性

○人と人とのつながりがあってこそその「幸福」ではないか。それをつくっていくのが ESD だと思う。